みんパピ！
みんなで知ろうHPV

がんを予防できるワクチン知ってますか？

全ての人に関係がある

日本だけ・子宮頸がんだけで毎年3,000人、
その他の関連する病気も含めると、男女問わず
年間数千人もの命を奪っているHPV（ヒトパピローマウイルス）。
ご自身やお子さんの年齢・性別に合うページを見つけて、
HPV感染を予防するワクチンについて、一緒に理解を深めましょう。

高校２年生以上の女の子と成人女性の方へ 4ページへ

高校１年生以下の女の子とその保護者の方へ 2ページへ

男の子とその保護者成人男性の方へ 3ページへ

HPVはとてもありふれたウイルスで8割以上の男女が一生のうちに一度は感染しています。

子宮頸がんのうち95%以上はHPVの感染によるものです

男性に多い中咽頭がんや肛門がんもHPVの感染が原因の一つです

1997～2005年度生まれの女性は2022年4月から無料で接種できます

日本では小学校6年生から高校1年生までの女の子は2価・4価のHPVワクチンを無料で接種できます

高1の9月までに初回を接種すると全3回無料で接種完了できます

安全性が確認されたため2021年11月に積極的接種勧奨が再開しました

みんパピ！
みんなで知ろうHPVプロジェクト

「みんパピ！みんなで知ろうHPVプロジェクト」は
HPVによって引き起こされる病気と
予防方法についてわかりやすく解説します！

みんパピ！ 検索

これ資料よりさらに詳しい情報を知りたい方はこちら！

© Minpapi Association 2022年3月制作

高校1年生以下の女の子とその保護者の方へ

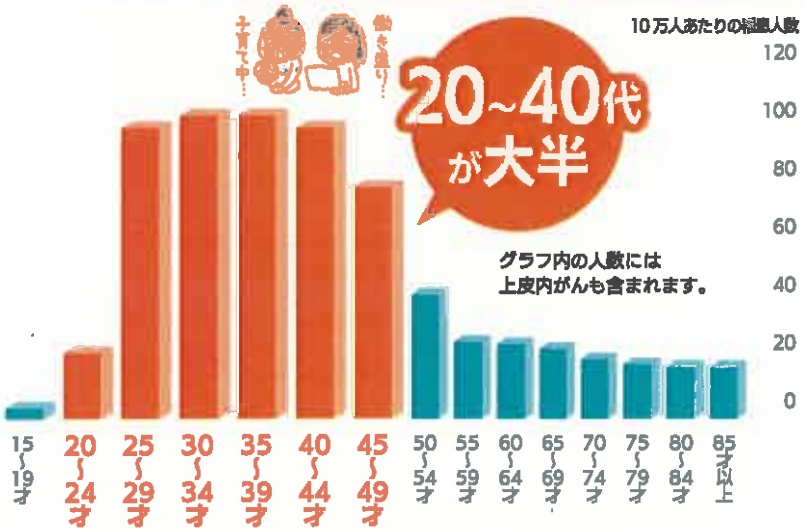
高1の9月までに
初回を接種すると
全3回無料で接種完了
できます

子宮頸がんとHPV（ヒトパピローマウイルス）

HPVには100種類以上の型があり、
その一部にがん（悪性腫瘍）の発症に
関係する型（＝ハイリスクHPV）があります。
このハイリスクHPVが
子宮の入り口（＝子宮頸部）の細胞に
長い期間感染すると、数年から十数年かけて
子宮頸がんを発症してしまうことがあります。
また、尖圭コンジローマという性感染症の
原因にもなります。

子宮頸がんで亡くなる人数 8人/日

治療のため多くの女性が 子宮摘出



女子へのHPVワクチンの効果

HPVワクチンを接種すると、HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。
17歳までに4価のHPVワクチン（4種類のHPVを防ぐ）を3回接種することで、将来の子宮頸がんの約88%を予防できます。

HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で
合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。
数多くの研究で、「HPVワクチンは特別に副反応（ワクチンの副作用）が起こりやすいわけではない」
ことが確かめられています。
日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

HPVワクチンの公費助成と接種方法

HPVワクチンは国の定める定期予防接種で、
「小学校6年生～高校1年生の女の子」は無料で接種できます。
定期予防接種の予診票の受け取り方は、自治体により異なります。
接種する際には、まずは自治体HPなどで確認し、
指定の医療機関に予約を取って受診しましょう。

予診票の受け取り方を自治体HPなどで確認 → 指定の医療機関を予約 → 無料接種

国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました（いわゆる積極的接種勧奨の差し控え）。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関（世界保健機関［WHO］）、米国疾病予防管理センター［CDC］など）もHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

© Minpapi Association 2022年3月制作

男の子とその保護者と成人男性の方へ

男性に関係するHPV(ヒトパピローマウイルス)が引き起こす病気

HPVというと子宮頸がんなど
女性の病気の原因というイメージがあるかも知れません。
でも、実は**中咽頭がん**や**陰茎がん**、**肛門がん**など
男性に起こるがんの原因にもなるのです。
これらに加えて、
尖圭（せんけい）コンジローマという
性器のイボもHPVの関連疾患です。

男性へのHPVワクチンの効果

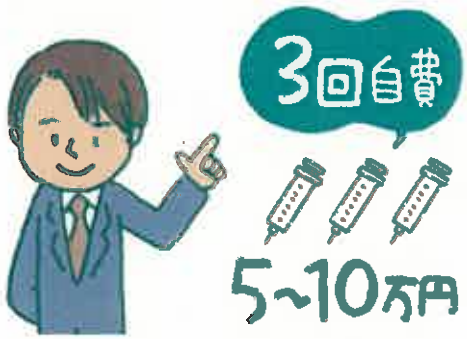
HPVワクチンを接種すると、
HPVに対する「抗体」が体内でつくられ、HPVの感染を防ぎます。
日本では、**肛門がんの約8~9割、中咽頭がんの約半分で**
HPV感染が原因だと言われており、
それらはHPVワクチンで予防できると考えられています。
また、尖圭コンジローマという
性感染症も予防できます。
そして、男性がHPVワクチンを接種
することは、**大切なパートナーを病気から**
守ることにもつながります。

HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは、2019年までに
世界で合計約5億回以上接種されている
安全なワクチンです。
数多くの研究で、
「HPVワクチンは特別に副反応（ワクチンの副作用）が起こりやすいわけではない」
ことが確かめられています。
日本でも、名古屋市で
大規模な調査が行われた結果、
十分な安全性が確かめられたことが
2018年に報告されています。

HPVワクチンの接種方法

9歳以上の男性が接種可能で、
接種する場合には年齢に関わらず自費になります（2021年1月時点）。
合計3回の接種が必要で、医療機関や種類によって異なりますが、
合計5~10万円ほどかかります。
医療機関に問い合わせ、HPVワクチンを男性も接種可能か、
事前にご確認ください。



医療機関に問い合わせ　HPVワクチンを男性も接種可能か → 3回接種 合計5~10万円

国内外の公的機関の見解

世界中の100以上の国と地域で女性だけでなく男性にもHPVワクチンの適応があり、
アメリカ、イギリス、オーストラリアなど約40の国と地域では
男性のHPVワクチン接種にも公費助成をしています。
実際にオーストラリアでは約9割、アメリカでは約6割の男性がHPVワクチンを接種しています。
日本でも2020年12月にHPVワクチン（4価）の男性への接種が承認されました。

© Minpapi Association 2022年3月制作

高校2年生以上の女の子 成人女性の方へ

1997-2005年度生まれは2024年度まで無料

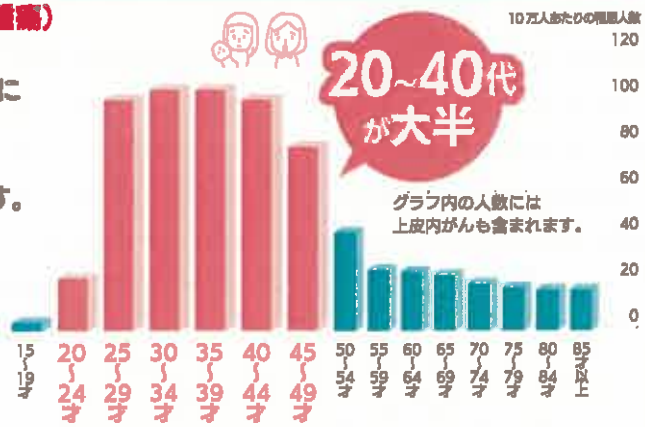
1996年度生まれ以前は自費で5~10万円

子宮頸がんとHPV(ヒトパピローマウイルス)

HPVには100種類以上の型があり、その一部に**がん(悪性腫瘍)の発症に関係する型(=ハイリスクHPV)**があります。
このハイリスクHPVが子宮の入り口(=子宮頸部)の細胞に長い期間感染すると、数年から十数年かけて子宮頸がんを発症してしまうことがあります。
また、**尖圭コンジローマ**という性感染症の原因にもなります。

子宮頸がんで亡くなる人数 **8人/日**

治療のため多くの女性が **子宮摘出**



17歳以上の女性へのHPVワクチンの効果と有効性

HPVワクチンはHPVの感染を予防するワクチンで、既に感染したウイルスを排除する効果はありません。しかし、性交渉をすると必ず感染するわけではないので、初交後のHPVワクチン接種も十分に効果があります。
実際に、17歳以上で4価のHPVワクチン(4種類のHPVを予防)を接種することで、将来の子宮頸がんの約53%を防ぐことがわかっています。
9価のHPVワクチン(9種類のHPVを予防)であれば、更に効果が高いと考えられています。
このため、HPVワクチンは26歳以下の全ての女性に接種が勧められており、27~45歳の女性も一定の効果が期待できます。

HPVワクチンの安全性

HPVワクチンは2019年までに世界で合計約5億回以上接種されている安全なワクチンです。
数多くの研究で、「HPVワクチンは特別に副反応(ワクチンの副作用)が起こりやすいわけではない」ことが確かめられています。日本でも、名古屋市で大規模な調査が行われた結果、十分な安全性が確かめられたことが2018年に報告されています。

1997-2005年度生まれの女性は2022年4月から3年間特例で 無料接種できます

1997~2005年度生まれの女性で、国が積極的におすすめをしていなかった時期に打ち逃した人は、**2022年からの3年間は原則無料で接種できる(キャッチアップ接種)**ことが決まりました。
合計3回の接種が必要ですが、**1~2回接種したあとに中断した人も、残りの回数を無料で接種できます。**
その場合は前と同じワクチンを接種することになります。
補助を受けるための手順は、住民票がある自治体に問い合わせてみてください。
すでに接種推奨年齢を過ぎていますので、**なるべく早めの接種がおすすめ**です。

1996年以前に生まれた女性も、**自費での接種が可能**です。
合計5~10万円かかりますが、医療機関やワクチンの種類によって異なりますので、事前に産婦人科や内科へ取り扱うワクチンの種類や費用をお問い合わせください。

国による積極的な推奨の再開

2013年以降、厚生労働省はHPVワクチンの安全性が十分確認できるまで、積極的に接種をすすめることを中止していました(いわゆる積極的接種勧奨の差し控え)。しかし、2021年11月に行われた専門家の会議で、HPVワクチンの安全性には問題がないことが確認され、有効性がリスクを明らかに上回ると判断されたため、国による接種の推奨が再開されました。世界の主要な保健機関(世界保健機関[WHO])、米国疾病予防管理センター[CDC]など)もHPVワクチンの安全性を認めており、接種を推奨しています。

© Minpapi Association 2022年3月制作